

講師を務めた亀山教諭



新宮市立城南中学校は15日、平成30年度立志式を行った。参加した1年生は中田善夫校長や和谷征幸教諭、亀山裕貴教諭らから激励の言葉を受け、大人になる一步を踏み出した。

武士の元服にちなんだ行事で、14歳になる生徒が大人に成長するための節目として昭和55年から続けられている。今回は同校卒業生でもある3年生担任の亀山教諭が講師を務めた。

開会のあいさつで中田校長は「この立志式を通して、また一步大人を目指してもらいたい」と語った。誓いの言葉では「私たちは、明るく元気な城南中学校を作ることを誓います」と宣言。作文発表や学年合唱で生徒全員が志を示した。

亀山教諭は初めに「今回は『生徒と教師』ではなく『先輩と後輩』として話を聞いてほしい」と話し、続けて自身の中学生時

立志式通し 一步大人に

「本当の仲間の大切さ知って」

代の経験を元にしながら、「本当の仲間の大切さを知ってほしい」と語った。亀山教諭は講話の中で「自分が本気にならなければ、相手も本気にはなってくれない。熱く取り組んだり、泥臭く生きたりするのは面倒かもしれないがそうして得た仲間は最高のものになる。君たちには最高の仲間と最高の卒業式を迎えてほしい」と呼び掛けた。

(尾崎涼)



城南中で伝統行事